

52 協力隊がゆく

こんにちは、有漢地域担当の西垣です。

新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言が1カ月余り続き、これまで開催していたイベントや開催予定だった行事が中止・延期となりました。毎週行っていた「スマホ相談室」も、カフェも十分に実施することができず、この期間は主に、個別のスマートフォン・パソコン相談対応と、地域のブドウ農家さんの作業支援に費やしました。

スマートフォン・パソコン相談については、訪問形式での相談が増えました。パソコンの設定やマイナンバーカードの申請など、時間を要することには相談者の自宅に伺って対応しています。

また、ブドウ作業支援の方は、5



ブドウの剪定をする西垣隊員



にしがき ようへい 西垣 陽平 隊員

月中旬からブドウの農繁期が始まったこともあり、未経験の私の方も猫の手の代わりくらいにはなつたようです。協力隊の任期が終了する3年後にはブドウ栽培での就農を考えているので、今の時期から実践的に勉強できるのはとてもありがたいです。

作業をする中で、農家さんごに管理の手法がかなり異なることに気付きます。また、年によって天候や条件も変わるので、収穫物の良し悪しだけが正解を教えてくれる世界なのだと実感しました。地道に細かい作業を延々と続ける仕事ですが、作業をやり終えてブドウ棚が整然と変わっているのを見ると快感を覚えるようになりました。そして何より、少しずつ膨らんでいくブドウの実はなんとも愛おしいものです。



スマホ相談室の様子



「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑪

日本遺産に認定された『「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—』のストーリーを構成する文化財を紹介します。

ささうねこうどう 「笹畝坑道」 未指定記念物(遺跡地)

笹畝坑道は、江戸時代後期、中野村(現在の成羽町中野)の井ノ辻北麓に開発された笹畝鉱山の本坑道跡です。明治12(1879)年には、岩崎弥太郎が経営する三菱商会の買収により、吉岡銅山の鉱区に編入(支山)され、大正時代後期まで操業が続きました。

その後、休山により放置されていましたが、昭和49(1974)年に吹屋地区が岡山県の「ふるさと村」に指定されたことを受け、その整備事業の一環として、同53(1978)年に坑道の一部(坑道口から約250m)が見学できるように復元整備されました。

笹畝坑道は吉岡銅山で唯一公開されている坑道跡です。坑道内には削岩機の跡やトロッコ軌道などが残り、また、鉱夫による銅鉱石採掘の様子を示すジオラマなどが設置され、近代における銅採掘の実態が体感できる空間となっています。



笹畝坑道を見学



現在もにじみ出る銅の成分

☎高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257